

令和5年度 京都府立清新高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（後期評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>一人一人のペースを大切にしながら、社会とつながる学びを通して、自立心・主体性を身につけさせ、地域で活躍しようとする生徒を育てる。</p>	<p>【 成果 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれに合わせながらの教育 ・「生徒の居場所としての学校」づくり ・進学・就職の合格・内定率100%達成 ・保護者・生徒の期待に応える学校 ・新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底 ・コロナ禍でありながら、生徒会活動等でデジタルネイティブ世代の取組が充実 ・校内外での活動活発化 ・地域との関わりの場（ねんりんサロン）創設 ・分かる授業とICT活用の推進が進展 ・施設設備の充実 <p>【 課題 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者目線の広報の充実、活動成果の積極的発信 ・地域連携のさらなる推進 ・地域と連携した活動の活発化や地域おこし協力隊・企業とも連携したキャリア教育の進展 ・PTA活動の充実と参加しやすい活動の明確化 ・教職員の働き方改革推進と長時間勤務の縮減 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人の自立心・主体性の育成を目指した、支援・指導体制の充実 2 人権意識の高揚とソーシャルスキルの向上による、学校生活の安定化と支援体制の充実 3 分かる授業づくり、指導と評価の一体化の進展 4 BYOD活用授業の活発化と情報モラルの徹底 5 すべての生徒の希望進路実現に向けた進路指導充実と、就職・進学先、勤労体験先との関係作り 6 開かれた学校づくりを目指した、地域連携のさらなる充実と広報活動の充実

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

（A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	地域の人材活用による学びの一層の推進	<p>地域おこし協力隊（地域コーディネーター）と連携し、地域の産業を踏まえた連携先・連携内容の開拓・充実を図り、地域の特性を理解し丹後の魅力を再発見する活動、郷土愛を醸成する活動を実施する。</p> <p>【 年間実施回数 A：10回以上 B：7～9回 C：4～6回 D：4回未満 】</p>	A B	<p>「総合的な探究の時間」、「郷土探究」、「地域文化」を中心に、多くの科目で地域の人材や企業等の協力を得ながら学習できている。「郷土探究」の総まとめとなる演劇発表では、地域の方や保護者を中心に約40名の参加があった。</p> <p>地域おこし協力隊の定例会を本校で実施し、情報交流会を行った。</p> <p>また、丹後王国内で地域連携授業として、一日体験学習を行った。</p>
	開かれた学校づくりを目指した広報活動の一層の推進、広報手段の検討と内容の整理	<p>授業や各種行事など、生徒の取組や学習内容、生徒の頑張りを、スピーディに紹介する。</p> <p>【 学校評価アンケート肯定的評価項目：「開かれた学校づくり」に向けた広報活動が充実 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】</p>	B	<p>学校評価アンケートでの肯定的評価は、生徒76%、保護者91%であった。校内の生徒にとっては、広報活動を行っていることが認識しにくい状態であると思われる。</p>
	3系列の特性を生かした校内体制の整備（連携の強化）及び地域連携の充実	<p>学校HPやフェイスブックに加え、学校通信（SeishinTimes）を発行し、公民館掲示や地区回覧板への掲載により、生徒の取組や学習内容を地域に紹介し、生徒の頑張りをアピールする。</p> <p>【 年間HP更新回数 A：60回以上 B：45～59回 C：30～44回 D：30回未満 】</p>	A	<p>学校HPやFacebookで学校行事や授業の取組等をスピーディーに紹介できている。HP・FB・学校通信を合計で約70回以上更新し、昨年以上に生徒の頑張りをアピールできた。各教科・系列の協力により更新回数も増加している。</p> <p>閲覧しやすいレイアウトや記事デザイン等に努め、見やすいHPを目指している。</p>
		<p>各系列の特性を生かし、栽培・加工・販売を通じた清新ブランドの商品開発等、系列を超えて連携した取組の充実を図る。奈具丘祭での発表をはじめ、それらの活動を通して地域とのさらなる連携を図る。</p> <p>【 年間実施回数（系列を超えた取組） A：6回以上 B：4～5回 C：2～3回 D：2回未満 】</p>	A	<p>近隣企業や施設でのイベントに参加し、野菜や加工品等の販売を行い、地域の方に生徒の活動を知ってもらうとともに、生徒自身も地域の方と関わる機会となっている。</p> <p>自然共生・ライフデザイン系列で連携し、商品開発から販売までの一貫した取組を2回実施した。奈具丘祭にて3系列合同でたい焼きを製造・販売、丹後万博では系列毎に参加した。</p>

学校運営協議会、PTA組織との協力体制の構築	<p>PTA役員が積極的に会員に参加を促し、PTA行事を活発に行う。PTA行事や学校行事等を通して保護者と教職員が理解と信頼を深め、家庭、学校、地域が連携しながら生徒の成長を見守り支える体制作りを進める。</p> <p>【 取組の年間実施回数 A：7回以上 B：5～6回 C：3～4回 D：3回未満 】</p>	A	<p>総会、Nagu fest、奈具丘祭、会員研修等、役員を中心に学校行事への参加を促した。PTA役員は学校行事に協力的であり、年間の取組回数は7回であった。今後も多くの会員が参加できる行事・取組を計画していく。</p>
	<p>学校運営協議会を開催し、学習活動や各種行事、PTA活動等についての意見を聞き、効果的な学校経営に活かす。</p> <p>【 年間実施回数 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 】</p>	B	<p>7月、11月、3月に運営協議会を開催し、委員の意見を参考に学校運営、教育活動を進めている。</p>
教育環境の充実、整備	<p>教育環境の充実に向け、施設設備の改修に取り組むとともに、限られた施設の有効活用とICT環境の一層の充実を図る。</p> <p>【 学校評価アンケート（生徒）肯定的評価項目：学習に向けて頑張ることができる教育環境や施設・設備が整っている A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】</p>	C	<p>グラウンドへ向かう坂道の舗装工事、視聴覚室のスクリーン・ホワイトボード設置、校内のLED化工事、空調整備、中庭整備等、快適な教育環境のために多くの改修・整備を実施している。</p> <p>学校評価アンケートの肯定的評価は、生徒80%、保護者85%である。</p>
安心、安全な教育環境の充実、整備、維持管理	<p>危険箇所の早期発見、教職員全員での情報共有と、その改善・老朽箇所の整備を進め、安心安全な教育環境の維持管理を図る。</p> <p>【 定期的な校内巡視の実施 A：年12回以上 B：年10～11回 C：年8～9回 D：年8回未満 】</p>	B	<p>定期的ではないが校内巡視による危険箇所の早期発見を図っている。また維持管理に向けて、改修も実施している。</p>
教職員の働き方改革の推進と長時間勤務の縮減	<p>行事、業務を精選し、教職員の多忙感、負担感の軽減を図る。またICT活用を積極的に進めることで業務の改善も図り、時間外勤務の削減を進める。</p> <p>【 「時間外在校等時間 月45時間以内」の目標達成率（月平均） A：100% B：95%以上 C：90%以上 D：90%未満 】</p>	A	<p>4月から1月までの月ごとの時間外勤務平均は最長約25時間、最短約9時間であり、すべての月で45時間以内を達成している。ただし、時間外勤務が長時間である教職員の固定化が見られ、組織としての在り方を常にチェックし、随時見直していく必要がある。</p>

学習支援	観点別評価および指導と評価の一体化の推進による学びの充実	<p>観点別評価および指導と評価の一体化に関する校内研修会を実施し、評価方法の改善、生徒の学びへの意欲向上を目指した授業改善を行う。</p> <p>【 授業アンケートの肯定的評価（生徒） 項目：授業は満足できる A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 】</p>	A	B	<p>観点別評価に関する研修会を授業計画段階の4月当初と1学期が終わった夏休みに実施した。評価の意義の確認や各教科の実践交流により適切な評価活動と授業改善につなげた。</p> <p>授業アンケートの肯定的評価は91%であった。</p>
	学習用端末の活用による、わかる授業づくりと、情報モラル教育の推進	<p>ICTを活用した授業に関する校内研修会を実施し、学習用端末等を活用したわかる授業づくりを進める。</p> <p>ICT機器を安全かつ効果的に活用するために情報モラルや情報リテラシーの指導を行う。</p> <p>【 学校評価アンケート（生徒）肯定的評価 項目：ICTを活用した学習活動が充実 A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満 】</p>	B		<p>ロイロノートに関する研修を実施した。授業においては多くの科目でタブレット等を活用している。また、1学期と2学期の公開授業週間における参観視点の一つにICT活用を入れ、より効果的な活用を含めた授業力向上につなげた。</p> <p>学校評価アンケートの肯定的評価は、生徒81%、保護者92%であった。</p>
	適性や能力について生徒自身の理解促進、ソーシャルスキルの向上	<p>1年次「産業社会と人間」における適性・能力理解やソーシャルスキルトレーニング、2年次・3年次での系列による学びを通して、自身の興味関心や適性の理解を促し、主体的に進路選択する姿勢を育てる。</p> <p>【 卒業年次生の進路希望調査「未定」率 A：0% B：5%まで C：10%まで D：15%以上 】</p>	B		<p>「産業社会と人間」では毎日10分間のモジュール授業でSSTを、45分授業で進路についての学習等を実施した。</p> <p>各年次が中心となり、計画的な面談や突発事項に対して組織的に取り組んでいる。基礎学力補充や学習集団の育成を目指し、試験前の自習活動にも取り組んでいる。</p>
生徒支援 健康安全	課外活動（部活動、ボランティア）を通した、生徒の社会参画意識高揚	<p>部活動への加入促進と同好会など生徒の主体性を活かした新しい活動の育成を図る。ボランティア活動への参加を推奨する。</p> <p>【 学校評価アンケート（生徒）肯定的評価 項目：部活動やボランティア活動は充実 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】</p>	D	B	<p>新しい同好会の発足はないが、既存の部活動は活発に活動できている。陸上競技部、ソフトテニス部、卓球部が全国大会に出場、上記3部活動とバドミントン部が近畿大会出場などの活躍を見せた。</p> <p>学校評価アンケートの肯定的評価は、生徒78%、保護者79%であった。</p>
	命の教育、人権教育の推進	<p>卒業までを見通して計画的に人権学習を進めるとともに、学校生活のあらゆる場面を通じて命を大切にする気持ちを育み、人権意識の高揚を目指す。</p>	A		<p>1・2学期には各年次に計画した人権教育を実施した。夏季休業中には大学教授を招いて教職員研修を実施し、外国にルーツを持つ高校生の現状と指導のあり方について</p>

		【 年間実施回数（人権学習・命の教育等） A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 】		で学んだ。3学期には各分掌・教科において人権に関わる学習内容について確認・整理をした。
	生徒会活動を通じた、生徒の自治意識の高揚	生徒会行事（球技大会、学校祭など）の計画・運営や、様々な企画に取り組みさせることで、組織作りの大切さと達成感を学ばせる。 【 学校評価アンケート（生徒）肯定的評価項目：学校行事は充実している A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	B	生徒会役員を中心に、球技大会、Nagu fest～心～、～体～ともに成功させることができた。生徒会が中心となって働きかけ、生徒・教職員による校則についてのグループディスカッションを進めることができた。学校評価アンケートの肯定的評価は、生徒89%、保護者100%であった。
進路支援	卒業後を見据えた進路指導の推進	キャリアパスポートなどによる進路学習や進路講演会、就職ガイダンス、企業見学、進学対策講座などのキャリア教育を推進する。 【 年間実施回数 A：5回以上 B：4回 C：3回 D：3回未満 】	A	B 外部講師を招いての進路講演会等、生徒が将来の自分の姿を考えるきっかけ作りとなっている。また卒業年次生の就職ならびに進学指導のため、定期的に進学・就職ガイダンスを開き、手続きや注意事項の伝達などを行うことができています。
		インターンシップ、勤労体験学習に向けた企業開拓、生徒の参加を促す取組を実施する。 【 インターンシップ後に実施するアンケート（生徒）肯定的評価 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	B	
	希望進路の実現	進学・就職指導を充実させ、卒業生全員の希望進路の実現を目指す。 【 卒業希望生徒の進路決定率 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	B	チューター・担任・進路支援部が協力しながら生徒の希望進路実現に向けて取り組んだ。卒業生に対する進路決定者の割合は、現状では90%である（3/1現在）。
教育相談	感染症対策の充実	感染症対策充実のため、引き続き教職員、生徒の意識を高め、その都度必要となる対応（健康観察、マスク着用等）の周知を徹底する。 【 学校評価アンケート（生徒）肯定的評価項目：心身の健康保持に向けた保健指導が適切に行われている	C	B 行事だけでなく日常の学校生活でも常に健康観察や換気を徹底することで感染拡大の防止につながった。また、夏以降はHR教室や職員室にCO2モニターを設置し、巡回時に数値に応じて声かけをすることで換気への意識を高めた。

		A : 90%以上 C : 80%以上	B : 85%以上 D : 80%未満	】	学校評価アンケートの肯定的評価は、生徒81%、保護者87%であった。
健康教育の推進	遅刻欠席者の背景確認とその対応のため、担任との連携をスムーズにする。 歯科保健指導の実施、ほけんだよりの発行など、健康教育を推進する。 【 歯科保健指導の年間実施回数 A : 3回以上 B : 2回 C : 1回 D : 実施せず 】		A		毎日の出席確認と担任との連携を行うことで、不登校を未然に防ぐことができたケースがあった。 歯科指導は、年5回実施した。受診率（報告があった割合）は12%で、昨年（18%）より低かった。低下の要因としては、受診はしているが報告がないケースがあること、生徒がお金と時間を健康よりも他のところへ使いたがること等が挙げられる。今後は全員を対象とした三者面談等で受診の喚起をしていく。また、自分の身体大切にするための指導（性教育）も必要である。
個別支援・指導の校内体制づくり、合理的配慮・教育相談・特別支援教育に対する理解の促進	朝の連絡会、部長会、職員会議で、教育相談の進捗状況を発信し、生徒の情報を学校全体で共有する。 相談の受付から全校体制での支援の終結までの流れを明確にする。 まなび生活アドバイザーの専門性を十分に活用する。 【 連絡会での情報共有について年度末に実施するアンケート（教員）肯定的評価 A : 90%以上 B : 85%以上 C : 80%以上 D : 80%未満 】		C		教育相談に関わる情報の発信について、教職員へのアンケートの結果83%が肯定的評価であった。低い数字ではないが、紙面や対面での情報共有や、連絡会に出られない教員への伝達に難しさがある。 まなび・生活アドバイザーとは、支援体制について意見交換をしながらで計画を立てた。来年度に向けて、現在修正をしているところである。個別のケースでは、アセスメントシートを活用することで生徒理解が深まり行動面で落ち着きを見せ始めた生徒がいる。

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・人的支援・財政支援の面で、非常に恵まれた環境であり、目標それぞれに成果が出ている。 ・地域と連携した学習も進んでおり、今後ますます地域協働の面で期待ができる。 ・成果ばかりでなく課題の部分もすべて見せる姿勢を、今後も大切にしてほしい。結果的にはそれがプラスになる。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を地域で見ている肯定的に評価できる部分はたくさんある。そのような良い情報が学校に伝わる仕組み、その肯定的評価が生徒にも伝わる仕組みがあれば良い。 ・重点目標や評価の基準、数値目標は、今後も継続的に見直されたい。
---------------	---